

静岡県藤枝市

ICT×ストック活用で、ビジネスと人の流れを生み出すまちづくり

藤枝市概要



市域面積: 194km²
人口: 143,605人
予算規模: 519億円
(H29一般会計当初予算)
財政力指数: 0.87

地方再生C.C.地区概要

面積: 155ha
当該地区への主な移動方法:
JR藤枝駅より徒歩0分
バス路線の結節点

3年間で実施する主な事業

- 街なかシェアサイクル事業
- 産学官連携情報ビジネス創造事業
- 駅前広場景観形成事業

総事業費: 3,237百万円
H30年度: 311百万円

事業実施地区

本地区は、中心市街地活性化事業により、商業施設やホテル、マンションなどが立地したが、昼間の賑わい不足や既存店の空き店舗化など新たな課題が発生。そこで独自のICTプラットフォームと街なかのストックを、産学官連携によって活用し、付加価値の高い暮らしと、新たなビジネスや人の流れを生み出すまちづくりを推進する。



実施事業

- 独自のICTプラットフォームによる新たなまちづくりとビジネス創造



・ソフトバンクとの包括提携により市内全域に整備した国内唯一のIoT通信基盤を活用したシェアサイクルを展開。回遊性向上と共に、移動データをマーケティングや商業活性化に活用。

・街なかビジネス支援機能を集約した産学官連携推進センターを設置。ICTを活用した起業・創業を推進。

藤枝市産学官連携推進協議会



静岡産業大学
SBS学苑 ABC
静岡産業大学
ICTコンソーシアム
まちづくり藤枝
藤枝市

- 公共空間を活用したビジネス体験



・緑あふれる景観に駅前広場を再整備、人々が訪れたいくなるオープンスペースを創出。



・駅前広場等のストックを活用した、マルシェやイルミネーションイベントを開催し、起業者に「試す場」を提供するとともに、賑わいを創出。リノベーションによる起業・創業へのステップアップを推進。

事業内容

- IoTを活用したシェアサイクル事業を展開し移動データを分析・活用すると共に、軌道敷南北のボトルネックとなっている踏切の拡幅改良を実施し回遊力を向上(①、②)
- ICT活用教育やビジネス教育プログラム提供など、起業・創業を推進(③、④)
- 駅前広場や、スポーツ拠点(市民体育館)の高質化を行うと共に、駅前広場等のストックを活用したマルシェやイルミネーション、産業を活性化させるイベントを実施、賑わい創出と、起業者の「試す場」を提供(⑤~⑨)
- 次のステップとして、街なかへの出店を促すため、空き店舗改修費用を助成し、リノベーションによる開業を支援(⑩、⑪)
- 上記循環を創出した上で、再開発事業と、土地利用規制の緩和により新たな民間投資を誘導(⑫、⑬)

事業効果

- 空き店舗を減少トレンドに反転
10年後に空き店舗「半減」を目指す
49件 → 40件 (3年) (関連事業: ⑨~⑪)
- まちなかへの移住
10年間で1,000人の社会増を目指す(現況人口1.1万人)
93人/年増加 → 100人/年増加(3年) (関連事業: ⑫、⑬)
- 昼間の歩行者数
10年間で1割増を目指す(1,000人増)
7.4千人/日 → 7.7千人/日(3年) (関連事業: ①~⑧)

連携体制

- ソフトバンクとの包括提携により、市内全域にIoT通信基盤を整備
- 産学官90社・団体参画により藤枝ICTコンソーシアムを組織し、ICT活用教育などビジネス支援。
- (株)まちづくり藤枝と連携し、駅前広場や道路などの公共空間にて、マルシェ、オープンカフェやイルミネーションなどの賑わいイベントを実施。IoTを活用した街なかシェアサイクル実施、移動データを蓄積・活用。
- 藤枝市産学官連携推進協議会によって、トライアルスペースや、ビジネス教育プログラムにより起業・創業、自立プロセスの構築。

持続可能性

- ICTコンソーシアムの高校生、大学生、社会人を対象にしたICT活用エキスパート養成事業などにより人材や起業・創業者を育成。
- BiVi藤枝、オーレ藤枝などの拠点は、低未利用な市有地を活用し、民間活力により整備し、維持管理は民間が運営。
- スポーツ拠点(市民体育館)には、指定管理者制度を導入。